令和８年８月17日（月）
読売新聞　朝刊・地域面奈良

薬用植物「トウキ」奈良由来

北海道医療大教授が講演

薬師寺月例
まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が16日、奈良市の薬師寺で開かれた。「シリーズ植物学」（全3回）の第2回で、北海道医療大教授の高上馬希重（こうじょうまれしげ）さんが薬用植物について講演し、約180人が聴き入った。



薬用植物について説明する高上馬さん（奈良市で）

高上馬さんは、薬用植物8種類を生育地や用途に分類して紹介。漢方に用いられるトウキの別名ヤマトトウキは、奈良で栽培されていたことにちなんでおり、現在でも五條市などに栽培地があることを説明した。

市販される漢方の7割以上に配合されるというカンゾウは、中国産の依存度が高いといい、国産実用化を目指して高上馬さんらが品種改良。規定以上の有効な成分を含むカンゾウの栽培に成功し、「国全体に供給できるよう増産する技術も開発している」と語った。

次回の月例塾は9月20日、陽川憲・北見工業大准教授が登壇する。